

令和5年7月26日

滋賀県内経済情勢報告

(令和5年7月判断)

1. 総論

【総括判断】 「県内経済は、持ち直している」

項目	前回 (令和5年4月判断)	今回 (令和5年7月判断)	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	→

(注) 5年7月判断は、前回4月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、回復しつつある。雇用情勢は、持ち直しつつある。

【主な項目の判断】

項目	前回 (令和5年4月判断)	今回 (令和5年7月判断)	前回比較
個人消費	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→
生産活動	回復しつつある	回復しつつある	→
雇用情勢	持ち直しつつある	持ち直しつつある	→
設備投資	4年度は前年度を上回る見込みとなっている	5年度は前年度を上回る見込みとなっている	→
企業収益	4年度は増益見込みとなっている	5年度は減益見込みとなっている	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが景気の下押しリスクとなっている。また、物価上昇等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費 「緩やかに回復しつつある」

百貨店・スーパー販売は、値上げ等による客足の減少などはみられるものの、客単価の上昇により売上は堅調に推移している。

コンビニエンスストア販売は、人流の変化（郊外から都市部）により回復基調に弱含みがあるものの、値上げ効果により売上は増加している。

ドラッグストア販売は、客単価の上昇や、化粧品、UV カット製品等の夏物用品などが好調であることから、売上は増加している。

ホームセンター販売は、物価高による買い控えの影響から DIY 用品、アウトドア用品及び園芸用品などの売れ行きが伸び悩んでいる。

家電大型専門店販売は、買替需要の一巡や気象状況の影響による夏物家電などの売行きの伸び悩みなどから、横ばいの状況にある。

乗用車の新車登録届出数は、普通・小型車、軽自動車ともに前年を上回っている。

観光動向は、新型コロナウイルス感染症の5類移行による人流の回復により、国内外の個人旅行客を中心に宿泊客が増加傾向にあることから、回復しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 値上げによる買い上げ点数の減少や競合等による客足の減少などがみられるものの、デリカ（惣菜）の支持向上や客単価の上昇により売上は堅調に推移している。（百貨店・スーパー）
- 人流の変化による客足の伸び悩みにより販売数量は厳しい状況にあるものの、値上げ効果により売上は堅調に推移している。（コンビニエンスストア）
- 値上げの影響から来客数は減少傾向にあるものの、客単価の上昇や食料品関連、化粧品、花粉症関連などが好調なことから売上高は上昇基調にある。なお、足下では気温の上昇とともに夏物（制汗剤・UV カット製品、殺虫剤等）が好調となっている。（ドラッグストア）
- ペット用品は引き続き好調であるものの、競合などによる日用品の低迷に加え、物価上昇による購買意欲の低下から DIY 用品、アウトドア用品及び園芸用品などほとんどの分野で売行きが伸び悩んでいる。今後も値上げを予定しており、客足の減少を懸念する。（ホームセンター）
- 例年この時期は乾燥機やエアコンなど夏物家電の需要が高まるが、今年は気温が低かったこともあり、足下、夏物家電の動きは鈍化傾向で、生活必需品の白物家電についてもコロナ禍での買い替え需要の一巡により、売行きは伸び悩んでいる。（家電量販店）
- 半導体等の部品の供給網が回復傾向にあることから、販売台数は回復基調にあり、契約から納車・登録までの期間についても徐々に短くなってきている。（自動車販売店）
- 新型コロナウイルス感染症の5類移行による人流の回復により、5月以降国内外の個人旅行客を中心に宿泊客数が大きく伸びており、稼働率は増加傾向にある。また、宴席需要についても回復基調にあるが、物価高や光熱費の高騰もあり収益率が悪くなってきている。（宿泊）
- ファミリー層を中心に非常に好調で、客数の回復以上に客単価の上昇などから売上はコロナ禍前の水準まで戻りつつある。（飲食）

■ 生産活動 「回復しつつある」

鉱工業指数（生産）は、半導体製造装置の需要は堅調で「生産用機械」に落ち着きが見られるものの、「化学」などの業種が高水準で推移しており、自動車関連の生産にも改善が見られるとの声が聴かれていることから、生産活動は回復しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 半導体製造装置を中心に需要は引き続き堅調にあるが、工場新設により生産能力の増強を図ったものの、依然として受注の積み上がりが続く状況にあり、生産は落ち着いている状況にある。なお、今後の需要はEV 車向けパワー半導体などが牽引し堅調に推移していく見通し。（生産用機械）
- 公共工事や住宅向けの需要が回復基調であり、原材料価格の上昇を販売価格に転嫁できていることから、売上高はコロナ前の水準近くまで戻ってきている。（化学）
- 船舶用エンジン、特に脱炭素の動きもあって新製品のデュアルフューエル機関の受注増や船舶メンテナンスの需要増が、売上高の底上げに寄与している。（はん用機械）

- 半導体不足の状況が回復基調にあり、自動車メーカーの生産量が増加傾向にあることから自動車関連を中心に好調であり、コロナ前の水準まで戻ってきている。(繊維)
- 包装用フィルムについては冷凍食品の需要が堅調であり、販売価格の上昇も起因して、売上は堅調に推移している。(プラスチック)
- 情報通信機器の需要低迷及び自動車関連の取引先の在庫調整もあり、計画よりも販売数は低調。また、製造過程の大半が中国ということもあり、中国経済の停滞の影響を受けている。なお、売上が上向くとしても秋以降と予想している。(情報通信機械)

■ 雇用情勢 「持ち直しつつある」

有効求人倍率は、引き続き1倍台を超える水準で推移している。また、新規求人数も前年を上回る水準となっている。

(主なヒアリング結果)

- 募集をかけると人材は確保できるが、若手の人材は辞めていく人が多く、技術系を中心に人手は不足している。(はん用機械)
- 半導体不足による度重なる休業で多くの正社員が退職し、穴埋めの採用を継続しているが、不足が常態化している。(輸送用機械)
- 高卒大卒で労働条件や環境のミスマッチにより退職する者も多く、子会社の生産ラインに不足感がある。(化学)
- 新規採用は給与が低いことや夜勤などの勤務体系も起因してか、なかなか応募がなく、中途採用の応募も厳しい状況。(電気機械)
- 正規非正規ともに、募集をかければ一定数の応募は受けているが、2~3年で辞める人材も多く、定着率の上昇に苦慮している。(陸運)
- 採用のメインは中途採用及び外国人採用となっており、新規出店に向けてベトナムからの特定技能外国人を採用する予定。(飲食)
- 学生を中心に多くの応募はあるが、流動性が高く、採用しても早くに辞めてしまうため、人手不足は慢性化している。(飲食)
- 短期パート・アルバイトは学生等の応募はあるが、長期になると少なくなる。(百貨店・スーパー)

■ 設備投資 「5年度は前年度を上回る見込みとなっている」 「法人企業景気予測調査(全産業)」5年4-6月期

5年度の設備投資は、全産業で31.5%増(対前年度増減率、以下同じ)の見込みとなっており、産業別では、製造業で14.7%増、非製造業で52.0%増の見込みとなっている。

■ 企業収益 「5年度は減益見込みとなっている」 「法人企業景気予測調査(全産業)」5年4-6月期

5年度の経常利益は、全産業で▲0.5%(対前年度増減率、以下同じ)の減益見込みとなっており、産業別では、製造業で11.6%の増益見込み、非製造業で▲32.1%の減益見込みとなっている。

【その他の項目】

■ 住宅建設 「前年を下回っている」

新設住宅着工戸数でみると、分譲マンションなどが減少していることから、全体で前年を下回っている。

■ 公共事業 「前年を上回っている」

前払金保証請負金額でみると、独立行政法人で増加していることから、全体で前年を上回っている。

■ 企業の景況感 「上昇」超となっている 「法人企業景気予測調査(全産業)」5年4-6月期

企業の景況判断BSIでみると、現状判断は「上昇」超となっている。先行きについても「上昇」超の見通しとなっている。

■ 企業倒産 「件数、負債金額ともに前年を上回っている」

倒産件数、負債金額ともに前年を上回っている。

お問合せ先：大津財務事務所 財務課 TEL077-522-6455

財 務 省